

レンコン 採れたよ

鳴門で収穫祭



「さあ、抜くぞ」。水田のぬかるみに足を取られながらレンコンを掘る。15日、鳴門市大津町段関で、自然再生型

農業プロジェクト「えんたのれんこん2009」の収穫祭があった。写真。農家の人たちと一緒に、生き物と共生し

ながら生育過程を体験しようという試みで、約50人が参加した。

この1年間、用水路にいるメダカを水田に導く魚道づくりや、タナゴ釣り、田の泥上げと、四季に応じた作業を楽しんできた。レンコンの軸(茎)倒しで取れたザリガニで作った中華料理も味わった。

この日は、その締めくくりだ。美しくて長いレンコンを掘り出した参加者には食事券が贈られるとあって、家族で力を合わせて挑んだ。長いものは1斤を超える。「どこまで続いているんだ」。掘る手を止めて思案顔。やっと泥を取り除くが、泥圧で折れてしまう。子どもの背丈ほどもあるレンコンをゲットした親子は泥まみれ。笑顔で高々と持ち上げた。

プロジェクトは、徳島大学

環境防災研究センター特任助教の田代優秋さんらが昨年、立ち上げた。「えんた」は、かつて水路と水田の間にあった半水没の「縁田えんた」のこと。